

主イエス・キリストの御名による祈りとは

□前回の学び

「天にいます私たちの父よ」という呼びかけで始まる「主の祈り」(マタイ6章)は、主イエス・キリストが教えてくださった祈りのパターンであり、祈りの対象は、父なる神であることは、よく知られています。

しかし、「イエス様」という呼びかけで祈る人、三位一体の神のそれぞれの位格をお呼びして「父なる神様、イエス様、聖霊様」と祈る人、さらには、とくに聖霊の満たしを求めるときなどに「聖霊様」と祈る人など、さまざまです。

そこで、今回は、「誰に対して祈ればよいのでしょうか」と題して、聖書が祈りについて記す箇所で、誰に対して祈っているかが示されている箇所を見ました。その結果、「父なる神に祈る」というのが、聖書の教えであるとわかりました。イエス様は明確に父に祈るように教え、その教えを受けた使徒たちも明確に父なる神に祈っています。

□今回のテーマ

同時に、主イエス・キリストは、「わたしの名において」父に求めるようにと言われました。そのため、私たちは、「天の父なる神様」という呼びかけで祈りを始め、「主イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン」という結語で祈りを締めくくります。

ただし、「主イエス・キリストの名において」ということばは、単にそのように唱えればよいというものではないことは、使徒19:13~17の「魔よけ祈禱師事件」に見るとおりです。

そこで今回のテーマは、「主イエス・キリストの御名において」祈るとは、どういうことか、について聖書から学びます。

1. イエスが公生涯の中で、祈りについて教えた箇所

1) ヨハネ14:13~14

① あなたがたがわたしの名によって求めることは何でも、わたしはしよう。

● マルコ16:20 主は彼らとともに働き

② 父が子によって栄光をお受けになるためである。

2) ヨハネ16:23~24

① あなたがたが父に求めることは何でも、父はわたしの名によって、それをあなたがたにお与えになる。

② 求めよ。そうすれば受ける。それは、あなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためである。

3) ヨハネ16:27

① あなたがたは、わたしを愛し、また、わたしを神から出て来た者と信じた。

- ② その愛と信仰のゆえに、父ご自身があなたがたを愛しておられる。
- ③ だから、あなたがたは、わたしの名において父に求めることができる。
- 4) **まとめ** 「わたしの名によって」とは、単にイエスの名を唱えるのではなく、イエスを愛し、イエスを神から出て来た者と信じる信仰があることを意味する。
2. 「美しの門」での癒し
- 1) 使徒 3:6 ナザレのイエス・キリストの名によって歩きなさい
- 2) 使徒 15~16 このイエスの御名が、・・・この人を完全なからだにした。
- ① その御名を信じる信仰のゆえに
- ② イエスによって与えられる信仰
- 3) 使徒 4:10 神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの御名
- 4) 使徒 4:30 あなたの聖なるしもべイエスの御名
- 5) **まとめ** 「わたしの名によって」とは、単にイエスの名を唱えるのではなく、神がイエスを死者の中からよみがえらせたことを信じる信仰があることを意味する。
3. ヘブル人への手紙に記録された教え
- 1) ヘブル 2:9~10
- ① イエスは、天使よりも、しばらくの間、低くされた。
- ② イエスは、死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠をお受けになった。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものである。
- ③ 神が多くの子たちを栄光に導くのに、【彼らの救いの創始者】を多くの苦しみを通して全うされたことは、【万物の存在の目的であり、また原因である方として】ふさわしいことであった。
- 【彼らの救いの創始者】とは、イエス
 - 【万物の存在の目的であり、また原因である方】とは、神
 - コロサイ人への手紙でパウロは、「御子」を万物の創造者であり、万物の目的であるお方である、としている（コロサイ 2:15~16 御子は、見えない神のかたちであり、・・・万物は御子によって造られ、御子のために造られたのです。）。それは、人としてのイエスではなく、子なる神として、である。
- 2) ヘブル 2:11~16
- ① 聖とする方（イエス）も、聖とされる者たち（多くの子たち）も、すべて元は一つ（人としての先祖は同じで、アブラハムの子孫）である。よって、主は彼らを「兄弟たち」と呼ぶ。
- ② 子たちはみな血と肉を持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになった。
- ③ その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷になっていた人々を解放するため。

- ④ 主は、天使（＝墮天使、悪魔と悪霊たち）を助けるのではなく、確かに、アブラハムの子孫を助けてくださる。
- 3) ヘブル 2 : 17～18
- ① 主は、すべての点で兄弟たちと同じようになられた。
- ② 主は、ご自身が試みを受けて苦しまれたので、試みられている者たちを助けることができる。
- ③ 主は、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となられた。
- 4) ヘブル 4 : 15～16
- ① 私たちの大祭司は、罪は犯されなかったが、すべての点で、私たちと同じように試みに会われた。
- ② よって、私たちの弱さに同情できない方ではない。
- ③ 私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、おりにかなった助けを受けるために、大胆に【恵みの御座】（＝契約の箱の、贖いの蓋）に近づこう。
- 5) ヘブル 5 : 7～10
- ① キリストは、人としてこの世におられたとき、自分を死から救うことのできる方に向かって、大きな叫び声と涙をもって祈りと願いをささげ、そしてその敬虔のゆえに聞き入れられた。
- ② キリストは、御子であられるのに、お受けになった多くの苦しみによって従順を学び、完全な者とされ、彼に従うすべての人々に対して、とこしえの救いを与える者となった。
- ③ 神は、キリストを、メルキゼデクの位に等しい大祭司とされた。
- 6) ヘブル 7 : 16～26
- ① キリストは、肉についての戒めである律法（＝モーセの律法）によらないで、朽ちることのない、いのちの力（＝復活）によって、祭司となった。
- ② キリストは、永遠に存在されるのであって、変わることはない祭司の務めを持っておられる。キリストは、いつも生きていて、とりなしをしておられる。
- ③ したがって、キリストは、ご自分によって神に近づく人々を、完全に救うことができになる。
- 7) **まとめ** 大祭司なるイエス様を通して神に近づくことが、定められた方法である。大祭司なるイエス様は、私たちの祈りをとりなしてください。
4. 使徒パウロの教え エペソ人への手紙から
- 1) この手紙では、「私たち」は、パウロはじめユダヤ人信者、「あなたがた」はイエス・キリストを信じる異邦人信者
- ① エペソ 1 : 12 前からキリスト（＝メシア）に希望を置いてきた私たち
- ② エペソ 3 : 1 あなたがた異邦人
- 2) エペソ 1 : 3 神は、キリストにあって、天にあるすべての霊的祝福をもって私た

ちを祝福してくださいました。→「天にあるすべての霊的祝福」とは、次の4つ。

- 3) エペソ 1:4~6 **神の子とされる**
 - ① 神は、私たちが世界の基の置かれる前からイエス・キリストにあって選び、御前で聖く、傷のない者にしようとされた。
 - ② 神は、みむねとみこころのままに、私たちがイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられた。
 - ③ 神は、その愛する方にあって私たちに「恵み」を与えてくださった。
 - ④ その恵みの栄光が、ほめたたえられるためである。
 - 4) エペソ 1:7 **罪の赦しを受ける**
 - ① この方にあって、私たちは、その血による贖い、罪の赦しを受けている。
 - ② これは、神の豊かな「恵み」によることである。
 - 5) エペソ 1:8~10 **みこころの奥義を知る**
 - ① この恵みを、神は私たちの上にあふれさせ、あらゆる知恵と思慮深さをもって、みこころの奥義を私たちに知らせてくださった。
 - ② みこころの奥義とは、イエス・キリストにあって、神があらかじめお立てになったみむねによることである。
 - ③ みこころの奥義は、時がついに満ちて、実現する。
 - ④ いっさいのものが、キリストにあって、一つに集められる。
 - ⑤ 天にあるもの地にあるものが、キリストにあって、一つに集められる。
 - 6) エペソ 1:11~14 **御国を受け継ぐ**
 - ① キリストにあって、私たちは御国を受け継ぐ者ともなった。
 - ② みこころによりご計画のままをみな行方（=父なる神）の目的に従って、私たちはあらかじめ御国を受け継ぐように定められていた。
 - ③ それは、前からキリストに望みを置いていた私たちが、神の栄光をほめたたえるためである。
 - キリストにあって、あなたがた異邦人もまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞き、またそれを信じたことにより、約束の聖霊をもって証印を押された。
 - ④ 聖霊は私たちが御国を受け継ぐことの保証である。これは神の民（=イスラエル）の贖いのためであり、神の栄光がほめたたえられるためである。
 - 7) **まとめ** 「主イエス・キリストの名において」とは、イスラエルの残れる者（レムナント）にとっては、天にある霊的祝福を受けるための道筋である。
5. 使徒パウロの教え ガラテヤ人への手紙から
- 1) ガラ 3:26~28 3つの「あなたがたはみな、」
 - ① キリスト・イエスに対する信仰によって、神の子どもである。
 - ② バプテスマを受けてキリストにつく者とされ、キリストをその身に着た。

- ③ キリスト・イエスにあって一つである。
- 2) ガラ 4:6
- ① あなたがたは子であるので、神は、「アバ、父よ」と呼ぶ、御子の霊を私たちの心に遣わしてくださった。
- ② それゆえ、あなたがたはもはや奴隷ではなく、子である。子ならば、神による相続人である。
- 3) ガラ 3:29 もしあなたがたがキリストのものであれば、それによってアブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです。
- 4) **まとめ** 「主イエス・キリストの名において」とは、異邦人の信仰者にとっては、自分がイエス・キリストのものであることの表明である。それによって、私たちは、アブラハムの子孫であり、約束による相続人となる。そして、イスラエルのレムナントと同様に、天にある霊的祝福に与る。メシアの王国（御国）をも、異邦人の領域を受け継ぐ。

□結論

以上の箇所を見てくると、「主イエス・キリストの名において」祈るということは、次の3つの意味があると言えます。

1. イエスを父なる神が遣わしたメシアであると信じ、父なる神がイエスを死から復活させ、栄光をお与えになったと信じることの表明です。この信仰を父なる神は大変喜ばれ、私たちの祈りに答えてくださいます。
2. 私たちは試みに弱く、失敗しやすい者ですが、イエスは私たちの弱さをよくわかってくださいます。イエスは私たちのために神の御前でとりなしをしてくださる大祭司です。「主イエス・キリストの名において」祈るとは、大祭司を通して神に祈ることです。それはイエスが代わって祈るのとは、違います。私たちは、イエスがとりなしてくださるから、大胆に神に近づくことができます。
3. 神は、イエス・キリストにあって私たちに天のあらゆる霊的祝福を与えてくださいます。「主イエス・キリストの名において」祈るということは、その祝福を受け取ろうとするときに通るべき、当然の筋道です。

□次回のテーマ

祈りにおいては、「もうひとりの助け主」である「聖霊」と祈りとの関係も気になるところです。そこで、次回のテーマは、「聖霊の助けによって」祈るとは、どういうことか、について、見てみたいと思います。